

2012年5月10日

報道各位

ニューホライズン キャピタル株式会社

## ハウステック、ヤマダ電機に売却 ～企業再生を完了、ファンドの社会的使命を完遂～

投資ファンド運営のニューホライズン キャピタル株式会社（本社 東京都港区西新橋、取締役会長兼 CEO 安東 泰志、以下「NHC」という）は本日、東京証券取引所市場第一部上場会社の株式会社ヤマダ電機（本社 群馬県高崎市、代表取締役社長 一宮 忠男、以下「ヤマダ電機」）との間で、再生を進めてきた住宅総合設備メーカーの株式会社ハウステックホールディングス（本社 東京都板橋区、代表取締役社長 星田 慎太郎、以下「ハウステック」）の全株式の譲渡に関して、株式譲渡契約書を締結いたしましたのでお知らせします。

NHC は、2008年1月当時、日立化成工業株式会社傘下で赤字経営に陥っていた旧日立ハウステック（2009年4月1日から「株式会社ハウステック」に商号を変更）に資本参加して以来、既存経営陣・従業員と協働し事業再生に取り組んで参りました。

資本参加後顕著になった改正建築基準法の影響やリーマンショックなど極めて困難な経営環境下にもかかわらず、NHCによる抜本的な事業構造改革支援の結果、翌年度から経常黒字に転換し、2012年3月期決算に至るまで4期連続の増益決算となり健全経営への完全脱却に成功し、将来に向けた更なる成長を追求するという新たなステージに入り、中国 No.1 のシステム・バスメーカーである科逸（COZY）社と中国における独占業務提携に成功、中国市場への本格的な参入を果たすとともに、上海子会社を設立するなど、アジア・太平洋地域の市場開拓に乗り出すに至りました。

本件は、ハウステックの今後の更なる成長戦略を熟慮するにあたりハウステックを、小売業のリーディングカンパニーとしてスマートハウスを中心とする ECO 関連事業を成長の一つの柱に位置づけるヤマダ電機に委ね、ヤマダ電機のもとでハウステックの強みを生かしつつ、両社で業容の拡大というシナジーを実現させていくことが、ハウステックの役職員にとって更なる発展に結びつく最適な選択であることは言うまでもなく、また NHC のファンドの投資家にとっても相応の利益が見込まれるものであり、日本における企業再生ファンドの社会的使命を十分に果たすことができると判断するに至りました。

大企業グループの中で潜在能力を発揮仕切れていなかったハウステックを短期間で再生し、新しい事業展開への道筋をつけた本件の成功は、PE ファンドによる民間資金（リスクマネー）を使った企業再生/再編の典型的なビジネスモデルとなるものと考えております。

また、今回のヤマダ電機へのハウステックの全普通株式の譲渡に先立って、今年3月にハウステックは全優先株式を償還しており、全普通株式譲渡と併せて投資家には相応の利益の還元が見込まれます。

今後も NHC は、メンバーの豊富な知見と経験を生かし、日本の産業の再編・活性化を促し、そして雇用の促進のための強力なエンジンとなることを目指しております。

この件に関する問い合わせ先：

広報担当（IFC）竹江、神谷、連絡先：03-5532-8921